

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2016年7月5日(火)1限 実施
前期②考査
千葉県立長生高等学校 第3学年 全組
Edited by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように5桁で記入してマークを忘れないこと。
例 3年D組1番 → 30401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。

倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第1問 次の文章を読み下の問い(問1~問3)に答えよ。(配点 20)

[1] 的な真理を愛し求めたソクラテスの精神は、弟子のプラトンに受けつがれた。プラトンは政治家として将来を嘱望されていたが、ソクラテスとの出会いと彼の不当な刑死を契機に、ポリスの再建をめざし、[2] を設立して人々に教えを説いた。

ソクラテスが問答法によって求めたものは、人間としてよく生きるための徳についての真の知であった。プラトンもこの課題を継承し、真の知を愛するということは、[1] 的な真理を求めることであり、それを行うのは人間の理性の活動であると考えた。

真の知とは、感覚がとらえる事物とは異なった、Aについての知である。私たちが日常において感覚的に体験する事物は、たえず変化し不完全である。たとえば、数学において円や三角形を描いてその本質を論じるとき、描かれた円や三角形は多少なりとも不正確である。しかし、このとき私たちは、目の前にある図形を超えた、完全で不変な円や三角形そのものについて論じているのである。

このように、[3] によってのみとらえることのできる完全な性質をもった(a)「ものそのもの」を、プラトンはアイデアとよび、『[4]』や『国家』のなかで論じている。彼は、とくに人間の勇氣などの徳、美などの価値について、アイデアの存在を説いた。彼によれば、アイデアとは個々の事物が存する [5] 界を超えた世界に存在するものであり、事物・価値の理想的な原型である。このアイデアを認識することこそ、学問の目的である。さらにプラトンは、さまざまなアイデアのなかの最高のアイデアを「[6]のアイデア」とよび、これを[5] 界における太陽のように、アイデア界に君臨する「アイデアのアイデア」とした。

問1 文章中の空欄 [1] ~ [6] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの

①~④のうちから一つずつ選べ。

[1]

① 限定	② 相対
③ 普遍	④ 特殊

[2]

① アカデメイア	② ストアポイキレ
③ リュケイオン	④ ムーセイオン

[3]

① 自然	② 理性
③ 感覚	④ 秩序

[4]

① ソクラテスの弁明	② ニコマコス倫理学
③ 饗宴	④ 神統記

[5]

① 幽冥	② アイデア
③ 叡智	④ 現象

[6]

① 聖	② 美
③ 真	④ 善

第2問 次の文章を読み下の問い(問1～問4)に答えよ。(配点 16)

徳についてのプラトンの考えは、「何よりも魂を大切にせよ」というソクラテスの教えから出発した。人間が徳をもつとは魂をよくはたらかせることであり、その魂のはたらきは、理性・[11]・欲望(情欲)の三つに分けることができる。

そして、魂をよいものとし、徳を備えるためには、イデア界に属するものとして善に向かう理性が、身体に属する[11]と欲望を導かなければならない。そのうえで、理性は正しく善に向かうことで[12]を、[11]は理性を助けて欲望を統制することで[13]を、欲望は理性にしたがい過度におちいらないことで[14]を、それぞれ実現する。さらにプラトンは、この三つの徳が調和したとき、人間の魂はもつともよい状態となって、[15]を実現することができる」と説いた。これらの徳は四元徳といわれ、ギリシア人の道徳性の基礎とされた。

プラトンは、国家を大きな魂にとらえ、人間の魂に見られる三つのはたらきは、国家であるポリスにも適用されると考えた。すなわち、理想のポリスとは、統治者、軍人、生産者が正しく統御されたものである。

さらにプラトンは、統治者のもつべき[12]の徳とはイデアについての真の知であるから、[A]という政治を唱えた。このような哲人政治にもとづく理想国家を説くことによって、彼は、当時墮落の一途をたどっていたアテネの政治を正そうとつとめたのである。

問1 文章中の空欄[11]～[15]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [11]

① 知性	② 気質
③ 気概	④ 能力

- [12]

① 感性	② 習性
③ 思慮	④ 知恵

- [13]

① 節制	② 臆病
③ 機知	④ 勇気

- [14]

① 節制	② 臆病
③ 機知	④ 勇気

- [15]

① 友愛	② 知恵
③ 正義	④ 幸福

問2 文中の空欄[A]に入る文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[16]

- ① 哲学者が統治者となるか、統治者が哲学者とならなければならない
- ② 民衆が理性にしたがって全体を統治しなければならない
- ③ 選挙で選ばれた知的エリートが国家を合理的に統治しなければならない
- ④ 少数の貴族が全体の利益を考えて国家を統治しなければならない。

問3 プラトンのアナムネーシスについての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[17]

- ① 魂のうちには三つではなく二つの品種、恣意的なものと欲望的なものがあると言うことになるだろうか。
- ② われわれが学ぶということは、もともと自分のものであった知識を再把握することなのではないか。
- ③ 評判や地位のことは気にしても、魂をできるだけすぐれたものにするということに気も遣わず心配もしていないとは。
- ④ 大切にしなければならないのは、ただ生きるということではなくて、善く生きるということなのだ。

問4 次の文章はプラトンの著作中の人物が、哲学的対話における言葉の価値を、書かれた言葉と対比しつつ述べたものである。この文章の説明としてとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[18] 【2015年センター本試験】

書かれた言葉は、あたかも実際に何事かを考えているかのようにみえる。だが、もし君が、そこで言われている事柄について質問すると、いつでも一つの同じ合図をするだけである。それに、どんな言葉でも、ひとたび書き物にされると、それを理解する人のところであろうと、全く不適當な人びとのところであろうと、転々とめぐり歩く。そして、誤って扱われたり、不当に罵られたりしたときは、書いた本人の助けを必要とする。……これに対し、人が対話の技術を用いながら、ふさわしい相手の魂の中に、知識とともに植え付ける言葉は、自分自身のみならず、植え付けた人をも助ける力をもつ言葉であり、また、実を結ばぬままに枯れることなく、一つの種を含んでいて、その種からはまた新たな言葉が新たな心の中に生まれ、かくて、常にその命を不滅に保つことができるのだ。そして、このような言葉を身に付けた人は、人間に可能な限りの最大の幸福を、この言葉の力により勝ちとるのである。 (『パイドロス』より)

- ① 書かれた言葉は、多様な読者に対して十分に筆者の考えを伝えることができないが、対話において適切な仕方では語られる言葉は、どのような対話者の魂をも育て、自ら考えることへと導いていく。
- ② 書かれた言葉は、内容を理解できない読者に読まれると、言葉本来の力が活かされずに終わる可能性があるが、対話を通じて育まれる言葉は思考する力となり、それを語る人びとを支えらるとともに、さらなる対話を導く。
- ③ 書かれた言葉は、文字として明確に表されているので、筆者の考えを正しく伝えるが、対話において語られる言葉は、対話の相手によって変化するので、話者の考えを正確に伝えることはできない。
- ④ 書かれた言葉は、全く変化しないため、時とともに説得力を失うが、生きた人間同士がかわす対話においては、それぞれの時代の価値観に即した内容が語られるので、説得力ある言葉が常に生み出されていく。

問2 下線部(a)に関して、アリストテレスの学問の分類として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[24]

- ① 理論学は人間のすることがらについての哲学であり、倫理学などが含まれる
- ② 実践学は存在を対象として研究するものであり、自然学などが含まれる
- ③ 制作学はある種の技術であり、弁論術などが含まれる
- ④ オルガノンとは論理学であり、すべての学問の最後に習得される

問3 アリストテレスが書いた次の文が示す論理の内容として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[25]

このような原理がなによりも最も確かなものであることは明らかである。「同じものが、同時に、また同じ事情のもとで、同じものに存続しかつ存続しないということは不可能である」という原理である。これがすべての原理のうちで最も確かな原理である。何人も「同じものがありかつあらぬ」と信じることは不可能だから、たとえある人々はヘラクレイトスがそう言ったと思っているにしても。あるドクサ（意見・判断）に対して逆にこれを否定する判断がそうした「反対のこと」であるとすれば、同じ人が同じものをあると信じると同時にあらぬと信じることの不可能であることは明白である。なぜなら、この点であやまるなら、その人は二つの相反するドクサを同時に抱くものとなろうからである。それゆえ、およそ論証をするものはすべて、この原理（矛盾律）を論証の終極のドクサとしてその論証をこの原理まで還元する。なぜならこの原理はその本性上、他のすべての公理にとってさえ、それらの原理なのだから。（『形而上学』）

- ① ある事物について同じ観点でかつ同時に、それを肯定しつつ否定することはできない
- ② 自分自身と一致しているべきもの、自己同一的に存在している
- ③ 存在するあるものがそれ自身と同一であるという場合、最低限必要な性質がある
- ④ ある事象について、二つの相反するものにその中間は存在しない

問4 下線部(b)に関して、素材、質料を意味するギリシア語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[26]

- ① エネルゲイア ② エイドス ③ デュナミス ④ ヒュレー

問5 下線部(c)に関して、アリストテレスがこのような幸福をあらわした用語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[27]

- ① 観想的な生活 ② 蓄財的な生活 ③ 政治的な生活 ④ 享樂的な生活

問6 アリストテレスの自然観として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[28]

- ① 終末論的自然観 ② 目的論的自然観 ③ 調和論的自然観 ④ 機械論的自然観

問4 下線部(c)に関して、次の正義についてのアリストテレスの説明があらわす正義として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[34]

相互交渉における正義は、むろんある何らかの均等であり、したがってまたこの意味での不正は、不均等でありはするが、しかし配分においてのような比例に即しての均等ではなくて、算術的比例に即しての均等すなわち平均である。というのは、たとえ善い人が悪い人から搾取しようと、悪い人が善い人から搾取しようと、また善い人が姦淫を犯しても悪い人が犯しても、そこには何らの差別もなく、ただそれぞれのこうむった害悪の程度の差のみが法の顧慮するところで、法は彼らを均等に取り扱っている。だから裁判官はこの意味での不正を均等化しようと努める。それは、この種の不正に不均等が存するからである。

- ① 全体的正義 ② 配分的正義 ③ 調整的正義 ④ 公正としての正義

問5 下線部(d)に関して、友愛についてのアリストテレスによる文中の空欄ア、イに入る語の組合せとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[35]

究極的な性質の友愛は、[ア]ひとびとの、すなわち [イ] において類似的なひとびとのあいだにおける、友愛である。

- ① ア 善き イ 有用性
② ア 善き イ 卓越性
③ ア 楽しき イ 卓越性
④ ア 楽しき イ 有用性

問6 文中の空欄 [A] に入る語として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[36]

- ① 法治 ② 政治 ③ 社会 ④ 国家

問7 「すべての人は自然本性上知ることを欲する」という言葉から始まるアリストテレスの著作として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[37]

(センター追試験 2014 年より)

- ① 『省察』 ② 『形而上学』 ③ 『自省録』 ④ 『クリトン』

問8 アリストテレスの『政治学』の文中の空欄 [38] に入る最も適当な語を、次の①～④のうちから一つ選べ。

明らかに、およそ [38] を追求する国制はいずれも、全般的な正義にかなっていないがゆえに、結局、正しい国制であるが、ただ支配者たち自らの私利私欲のみを追求するそれらはすべて誤った国制であり、正しい国制の道を踏み外したものどもである。というのはそれらは独断専制的だからである。しかるに、国家はもともと自由人の共同体なのだから。

- ① 国民共通の利益 ② 国家の利益 ③ 民衆の利益 ④ 貧者の利益

- [41] ⎧ ① アウタルケイア ② アタラクシア
 ⎩ ③ アトマ ④ アパテイア
- [42] ⎧ ① アタラクシア ② アウタルケイア
 ⎩ ③ アトマ ④ アパテイア
- [43] ⎧ ① 犬のように生きよ ② 快樂に従って生きよ
 ⎩ ③ 隠れて生きよ ④ 運命に従って生きよ
- [44] ⎧ ① エピクテトス ② キケロ
 ⎩ ③ セネカ ④ ネロ
- [45] ⎧ ① 自然学 ② 国家
 ⎩ ③ 自省録 ④ 世界市民

問 2 下線部(a)に関して、情念をあらわす語として最も適当なものを次の①～④のうちから一つ選べ。[46]

- ① コスモス ② ログス ③ カオス ④ パトス

問 3 下線部(b)に関して、自然法の説明としてもっとも適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[47]

- ① 国家の根本原理を示した法
② 人間が自然に定めている法
③ 科学によって自然の中に見いだす法
④ 理性を本性とする人間が従うべき法

問 4 下線部(c)に関して、エピクロス派が死の恐怖を取り除いた思想としてもっとも適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[48]

- ① 四元素説 ② 原子論 ③ 正義論 ④ 幸福論

問題は次のページに続きます。

問5 次の文が説明する人物として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[49]

キュニコス(犬儒)学派の代表的人物で、若いころ黒海沿岸のシノペで贖金作りをしており、発覚してアテナイに亡命したが、その後も精神的な意味での贖金作り、つまり公認の価値と異なった価値の創造を行ったといわれている。アンティステネスの学統を受け継ぎ、いっさいの物質的虚飾を排し、最小限の生活必需品だけで生きる自然状態こそ、人間にとって最高の幸福だとした。衣服をつけず、靴もはかず、野犬のように街頭に寝泊りし、樽を棲家とし、公衆の面前で女性と交わったという。「恥をなくすこと」(アナイディア)によって、あらゆる因襲、権威から解放されること、これが魂の自足(アウトアルケイア)を目ざす彼の哲学的実践であった。その弟子テーバイのクラテスは師説を広め、無所有こそ、いっさいの苦しみ、葛藤から逃れる秘訣とし、後のストア学派の前触れとなった。

- ① ディオゲネス ② ヘラクレイトス ③ プロティノス ④ ゼノン

問6 新プラトン主義の説明として**適当でないもの**を次の①～④のうちから一つ選べ。[50]

- ① 一者は〈第一なるもの〉または〈善〉と呼ばれ、それ自体はまったく単純なものでありながら、その中にありとあらゆる多様性を潜在的に含んでいる。これは完全な充実であり、あらゆる認識、生命、本質、存在を超越する。
- ② 〈一者〉から〈叡智〉が、〈叡智〉から〈魂〉が、あたかもあふれる水のように流出する。下のものは上のものと本質を同じくするが、勢いや力の劣った存在形態であり、三つの原理的なものは階層的秩序を保ちながら、しかも連続している。
- ③ 階層的秩序の中であって、下のものは上のものの映し、または表現であり、下降形態であるから、下のものは上のものの本性をもち、それを通じて上のものと交流することができる。上のものが下に影響するだけでなく、下のものも上に影響することができる。人間はこれによって上のもの、つまり神霊や神々と結びつくことができるのである。
- ④ 天国の天使たちの間で序列上の地位が3段階に分かれるように、地上の世界で聖職者たちも、カトリックでは司教・司祭・助祭と、東方正教では主教・司祭・輔祭というように序列上の地位が分かれている。この地位の相違は神の栄光と啓示があらわれる段階的な地位の違いを示しており、高い地位ほど高い価値にかかわり高い権威をもつ。

これで問題は終わりです。